徳島県阿南市・鳴門市視察報告

令和８年７月１３日

貝塚市議会議長
川岸　貞利　様

参加者
阪口　芳弘
南野　敬介

報告１　徳島県阿南市「野球のまち推進事業」について

【１】 はじめに

令和８年７月６日午後１時 30 分頃、徳島県阿南市富岡町トノ町 12-3 阿南市役所へ到着。

阿南市議会事務局議事課運転技師の杉本崇将氏のお出迎えを受け、阿南市議会議長の幸坂孝則氏より歓迎の挨拶をうけました。

事業説明には、阿南市産業部野球のまち推進課長の小谷寿之氏、同課長補佐の松崎知巳氏のより行われました。

【２】 事業の概要

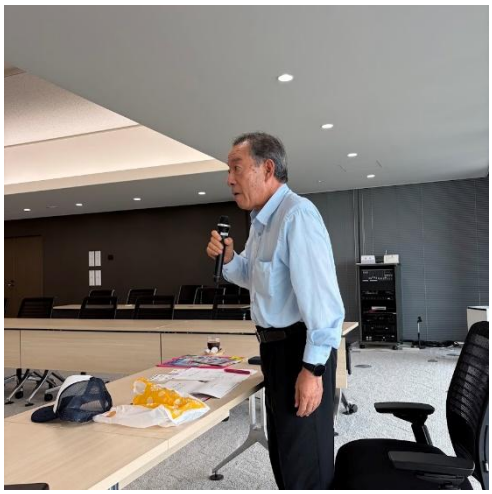
① 事業開始に至る経過について

平成 17 年 6 月長野県上田市で開催された「おとうさんの甲子園」と呼ばれる全日本生涯還暦野球大会に市長と担当者で視察を行ったことがきっかけです。

当初の目的は一人の職員が野球を活用した地域活性化の先進事例を視察する事を提案されました。阿南市にどのような経済効果をもたらせる事業が展開できるかという視点で様々な視察を行っていたうちの一つでありました。

その中で、全国から約 200 チーム、4000 名の選手が参加し、上田市や周辺の温泉宿に宿泊している事を目のあたりにしました。その中で「野球」で人が集めれれると確信したそ

うです。



そんな中で市長よりへ平成 19 年 2 月に「野球のまち阿南構想が正式に発表さました。

さらに同年には「JA アグリあなんスタジアム（野球場・総工事費 13 億円・市が管理運営）」が完成（県建設）し、官民連携組織の「野球のまち阿南推進協議会」が設立されました。

この協議会は、３年間を試用期間として、その効果を見て行政組織の位置づけを検討するというものでした。

その結果、様々な意見はあったものの市民への浸透を図ったところ、その成果も認められ産業部内に「野球のまち推進課」設置されたものです。

JA アグリあなんスタジアムでは、令和 6 年に AI カメラを設置し、少年野球や全国大会を放映し、視聴料の徴収や DVD の販売などで収益を得ています。

さらにスタジアム周辺も「あななんアリーナ（屋内多目的施設）」を整備しました。会議室を兼ねたトレーニング室や投球練習場なども整備され、天候に左右されない通年の合宿誘致が可能となりました。社会人野球、大学野球部、高校野球部の合宿に活用されるなど多岐にわたって活用されています。

事業の広がりの中でスポーツツーリズムの 7 本柱がを軸に事業が展開されています。その 7 本柱とは・・・

ア） 野球大会の開催

集約につながりう野球大会の開催

- 西日本生涯還暦野球大会（毎年 4 月）
- 少年野球全国大会（毎年 7 月）
- 西日本 500 歳野球大会
- ディーボール各種大会
- 中学校軟式野球全国大会

イ） 合宿の誘致

- 京都大学硬式野球部（毎年 2 月・9 月）
- 北信越地区高校選抜出場校 2 校（毎年 3 月）
- 京都山城高校硬式野球部
- 海外チーム、社会人野球チーム、少年野球チーム　等

ウ）野球観光ツアー

・1 泊 2 食、2 試合の交流試合と歓迎交流会付きツアー

一人 20000 円

エ）イベント開催

・高校野球交流フェスティバル

・ドリームベースボール（名球会チーム）

・東京六大学野球オールスターゲーム

・県内出身現役プロ野球選手による野球教室

・女子野球の推進

オ）地域特性活用

・甲子園に近い特性を生かして、北信越の選抜高校野球出場校の直前合宿

・合宿の昼食時に湯茶サービスの提供や荷物の運搬

カ）市民参加

・60 歳以上の女性で編成する野球のまち阿南施設応援団

ABO60（A 阿南 B ベースボール O おばちゃん 60 歳以上の略）

キ）海外交流

・阿南、モンゴル野球交流

この成果として、令和 7 年度には、宿泊延人員 4431 人、参加者延数 11834 人、経済効果額約 1 億 2973 万円となりました。

② 予算について

「野球のまち推進事業（563 万円）」「野球のまち推進事業《定住自立圏》（273 万円）」の 2 本立て

財源については、「野球のまちづくり推進協力収入」として複数の自主財源が確保されています。サッポロビール㈱とは年間 30 万円の協力金の締結。やダイドードリンコ㈱とは、市内 9 か所の支援型自動販売機の売上（年間約 40 万円）、AI カメラ視聴料収入（約 50 万円）、ふるさと納税、ネーミングライツ等が充てられています。

③ 市民の評価について

当初は「なんで阿南が野球のまちなのか、よくわからない」「勝手に野球のまちと言ってけしからん」などと批判的な意見が多かったようです。

しかし、事業を進めるうえで観光業や少しづつ経済効果も出てきて市民の理解は着実に深まっていったようです。

次第に市民や各種団体が自発的に事業を支える姿が見えてきました。その象徴が野球のまち阿南の施設応援団の「ABO60」です。大会での開会式や応援ダンスなどで事業を盛り上げています。

更に成果としては、市内の大型ホテル3棟が建設され、合宿などの受入れることにより経済効果が目の当たりになったことも大きかったとの事です。

④ 今後の課題について

課題については、

ア）審判員・放送記録員の人材確保と若手育成

野球大会の運営には欠かせない、審判員と放送記録員。特に放送記録員が現在15名で、人員不足との事です。

イ）少年野球実行の減少と大会参加チーム数の維持

少子化の影響で少年野球人口は減少傾向に歯止めがかからない状態です。参加チームが減少するとそれだけ経済効果も低下することにつながります。参加チームをどのように確保するかが課題となっています。

ウ）グランドの確保

野球観光ツアーの需要は高いが、県内最大の「鳴門・オロナミンC球場」の改装工事が終了すると、阿南で行っていた大会が鳴門に戻ることも考えられます。

エ）事業の担い手・後継者の育成

これまでの歴代担当職員の積み上げてきたネットワークでなりたっています。担当者の人事異動などで継続が困難となるリスクもあり組織としてどのように継承していくかが課題となっているようです。

オ）猛暑対策、選手・審判員の安全確保

少年野球全国大会は7月の開催です。開会式の短縮など実施していますが、選手・審判・関係紗の安全を優先した大会運営の見直しが課題となっているようです。

【３】 最後に

貝塚市では、日本生命野球部・卓球部が活動しており、そしてドローンクリケットフィルードを有しています。

そうした意味では、スポーツに特化しやすい状況はあるが、徹底して取り組まれているのかどうかは疑問であり、「スポーツのまち貝塚市」をスローガンに進めていく必要もあるのではないでしょうか。

貝塚市でその土壌は十分にある思いますし、ある資源を利用して取り組まなくてはならないと考えます。

阿南市での先進的な取り組みに大いに刺激を受け、行政視察を終了いたしました。

帽子は甲子園に出場した「阿南光高校」のものです。幸坂議長よりいただきました。

報告２　徳島県鳴門市

「おむつ・粉ミルク等無償宅配事業」について

【１】はじめに

令和８年７月７日午前１０時頃、徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170 鳴門市役所に到着。

鳴門市議会事務局上席理事兼事務局長の西上昭二氏、同事務局書記の加納健太氏のお出迎えを受け、同市議会議長の高麗裕之氏より歓迎のご挨拶をいただきました。

事業の説明には、鳴門市こども未来創造部子育て支援課長の西條恵子氏、同副課長の藤田貴美子氏より行われました。

【２】事業の概要

鳴門市は、未婚率の増加、出産年齢助成でも人口減少傾向にあり、晩産化が進行しています。

若者の転出超過及び未婚化、晩婚化の進展で出産適齢期の夫婦の数が減少し、出産数の減少と悪循環している現状があります。

特に子育て世代が近隣市町へ流出している現状がある事からアンケート調査を実施しその結果①教育保育の充実-公的費用の軽減が必要②特に支援が必要な時期は義務教育終了後までと判明しました。

結婚～新生活～妊娠～出産～子育て～住宅取得の間を「子どもファースト」の視点で興梠っ国支援する事によって子育て世代の定住人口の確保を図ることが求められました。

こうした考えから令和４年より「なるとまるごと子育て応援パッケージ事業」がスタートしました。

① なるとまるごと子育て応援パッケージ事業全体像

令和８年度当初予算は、5 億 8968 万円（30 事業）

ア） 出会い・結婚・新生活・妊娠前

・一期一縁プロジェクト	100 万円
・地域婚活支援重点事業	15 万円
・地域結婚㞍事業補助金	60 万円
・なると結婚新生活スタート支援補助金	1260 万円
・なると新婚世帯家賃補助金	630 万円
・その他	25 万円

イ） 妊娠・出産

・不育症治療支援	50 万円
・不妊治療支援	950 万円
・多胎妊婦健康診査支援	5 万円
・妊娠判定受診費用助成	5 万円
・新生児出産祝い金（赤ちゃん一人 10 万円）	2500 万円
・男性育児休業取得支援事業	525 万円

ウ） 修学前

・乳幼児ねんねケア	63 万円
・在宅児応援おむつ等無償宅配事業	**1710 万円**
・保育料無償化	8434 万円
・保育士人材確保推進事業	240 万円
・修学前の障がい児発達支援無償化	50 万円

エ） 修学前・小学生

・病児、病後児保育広域利用助成	10 万円
・ファミリーサポートセンター利用料助成	165 万円
・給食無償化（中学生まで）	2 億 4844 万円

オ） 小学生

・新１年生ランドセル無償化	315 万円

カ） 小中学生

・小中学校入学祝い金（子ども一人１万円）	750 万円
・修学援助制度	3862 万円

・市内企業おしごと体験　55 万円
・修学旅行無償化　4611 万円

キ） 高校生

・鳴門市奨学金制度（入学時に 10 万円）　710 万円
・インフルエンザ予防接種助成（中学生～）　281 万円

ク） その他

・なると定住促進住宅取得補助金（最大 100 万円）　6500 万円
・ママの為の学び舎事業（ママビヤ）　95 万円

② おむつ・粉ミルク等無償宅配事業

ア） 事業実施に至る経過

消費者物価指数が対象とする 582 品目の商品やサービスのうち、粉ミルク、乳児服、乳児用紙おむつ、人形、。玩具自転車の数値を抽出して試算される「赤ちゃん物価指数」が 2021 年から 2025 年にかけて 2 倍以上高騰している事を受けて、物価高騰対策事業として令和 5 年に試験的に実施されたものです。

在宅で 0 歳～2 歳児の育児を行っている世帯に対し、経済的負担軽減を目指して取り組まれています。

紙おむつ、粉ミルク、おしりふき、離乳食などから好きな商品を２点選択し申請の翌月より宅配が開始されます。

委託先は「徳島生協」。生協はこれまで宅配のノウハウがあり経験も豊富であることから選定されました。

事業費の内訳は、商品代、ガソリン代、パッケージ代、人件費の一部に充てられています。

何故「在宅」のみなのか？については、保育所に入所した児童に対しては「保育料の無償化」で経済的負担の軽減を行っている事から「在宅」のみとなった経過をご説

明いただきました。ちなみに、保育料の無償化は、0 歳児から・第１子から、所得制限無しで無償化に取り組まれています。

イ） 利用者からの評価

毎年対象者アンケートを実施しています。令和 5 年度では「満足・やや満足」が 97%。令和 6 年度では 90%。令和 7 年度では 95%と利用者には喜ばれている事がわかります。

自由記載欄にも様々な前向きな意見が出されていて喜ばれている事がわかります。

ウ） 今後の課題

アンケート調査では新たな希望も寄せられることもあるようです。それらの希望にどのように応えていくのか、色々模索しながら続けていきたいと決意が述べられました。

③ その他の事業

ア） 鳴門の子育て支援無償化

鳴門市では子育て関連事業のうち 10 事業が無償化されています。

①保育料②給食費③保育所・幼稚園・認定こども園の副食費④修学前障がい児の発達支援⑤インフルエンザ予防接種⑥英検受験料⑦修学旅行⑧新 1 年生ランドセル⑨一般不妊治療費⑩おむつ・粉ミルク無償宅配

上記事業については、いずれも「所得制限」はなく子育て世代には喜ばれています。

イ） 住宅支援

・なると定住促進住宅取得補助金

夫婦（又はパートナー）のいずれかが 39 歳以下の世帯の鳴門市内での住宅取得として最大 100 万円補助するものです。

基本補助金が 30 万円で加点方式で最大 100 万円となります

・なると結婚新生活スタート支援補助金（上限 60 万円）

新生活開始に係る居住費を支援。主に敷金、礼金、仲介手数料、引っ越し費用に利用できます。

ウ） 新生児出産祝い金事業

・国の給付金 10 万円と合わせて合計 20 万円支給されます。

エ） 新１年生ランドセル無償化事業

・新 1 年生に対して、入学前年度に希望をとりランドセルに代わるリュックサックを支給。保護者が江良べれます。家庭の負担軽減につながっているようです。配布するリュックサックは約 1 万円。利用する保護者からも好評を得ているようです。

オ） 子育て支援課以外の主な事業

・不妊治療費助成事業

保険適用の一般不妊治療、生殖補助医療に助成されます

・男性の育児休業取得支援事業

男性の育児参加を促すために、育児休業を取得しただ院制労働者に奨励金が支給されます。

【３】最後に

少子高齢化は、どこの自治体でも課題となっています。少子化に歯止めをかけることは難しいですが、子育て世代への支援を行うことによって少しでも歯止めをかけるようにしたいと担当課の皆さんはおっしゃっていました。

財源の確保など課題はあるとは思いますが、子育て支援が人口減少の歯止めになるような取り組みが必要であると感じました。